

審議会等会議録

審議会等の名称	第1回多世代交流・健康増進拠点施設整備専門会議
開催日時	令和3年3月30日(火曜日)13:00～15:00
開催場所	山口市役所 3階 第2委員会室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	山口県立大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授 廣田智子 山口商工会議所 専務理事 大田正之 大正大学社会共生学部公共政策学科 教授 村橋克則（リモート出席） 一般財団法人山口観光コンベンション協会 事務局長 田中光敏 山口大学大学院創成科学研究科 教授 鵜心治 （5名・敬称略）
欠席者	無し
事務局	渡辺市長 総合政策部 田中総合政策部長、山田総合政策部次長 スマートシティ推進室 宮原室長 他5名 光井純アンドアソシエーツ大建設計共同体 光井純アンドアソシエーツ建築設計事務所 光井純代表取締役 同社西日本岩国オフィス 原一樹所長 株式会社大建設計 広島事務所 沖中資康設計室長 オブザーバー 都市整備部都市計画課 清水課長 都市整備部建築課 山本課長
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 委嘱状交付 4 会長・副会長選任 5 議事 (1)多世代交流・健康増進拠点施設整備について (2)意見交換 6 今後の日程 第2回会議の日程について 7 閉会
内容	次第に基づき以下のとおり進められた。 1 開会 (省略)

2 市長あいさつ

【渡辺市長】 多世代交流・健康増進拠点施設整備専門会議の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

まずもって、委員の皆様方におかれましては、平素より市政各般にわたり、格別の御支援また御指導を賜っておりますことに対しまして、厚くお礼を申し上げます。また、公私ともに大変に御多用にもかかわらず、本専門会議委員の就任につきまして、御快諾をいただき、そしてまた、本日御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて御案内のとおり、本市におきましては、平成30年3月に第二次山口市総合計画を策定し、「豊かな暮らし 交流と創造のまち 山口 ～これが私のふるさとだ～」を将来都市像として掲げ、地域資源を生かしながら、市内21の地域で「住んで良かった これからも住み続けたい」と心から思えるまちづくりを進めています。

とりわけ、湯田地域につきましては、山陽路随一の豊富な湯量、幕末に活躍した志士や、詩人・俳人などの文化人をはじめとした多くの人々に愛されてきた湯田温泉がございまして、「住んでよし・訪れてよしの湯田温泉」を発展の方向性といたしまして、歴史や地域資源に恵まれた豊かな暮らしを実現することで、その暮らしぶりに惹きつけられるかたちで、観光客などが更に訪れる、こうした生活者と来訪者の双方が魅力を感じる持続可能な、街なか温泉ならでは、観光地域づくりを進めているところでございます。

こうした中、昨年10月に、整備基本計画を策定いたしました多世代・交流健康増進拠点施設につきましては、居住エリアと温泉街エリアの双方に接しているという整備予定地の立地特性を生かし、市民の皆様により日常的に温泉の恵みや様々な交流を楽しんでいただくことで、市民の皆様の心身の健康増進や湯田温泉への愛着心を育んでまいりますと同時に、観光地域づくりの拠点として、市民と観光客の皆様の交流の場となる施設を目指しております。

加えまして、皆様、御承知のとおり、新山口駅北口に整備しました、山口市産業交流拠点施設が、明後日の4月1日からオープンをいたしますことから、今後、新山口駅を中心に生み出される新たな賑わいや人の流れを湯田温泉や市内全体に波及させていくためにも、湯田温泉の魅力をさらに高める必要があると考えており、多世代交流・健康増進拠点施設の整備に加えて、周辺道路の改良や、路地整備など、県道204号から北側エリアの一体的な整備も進めてまいることとしております。

そして、こうした一体的な取組を通じまして、今後本格的な人口減少時代を迎える中にありましても、湯田地域と本市の定住人口を増加させ、同時に、湯田温泉の交流人口の増加を実現可能とする観光地域づくりを進めてまいりたいと存じます。

私も常々、本拠点施設や湯田温泉が、まずは多くの市民の方々に愛され、その上で、観光客の方にも、来ていただける魅力ある施設、湯田温泉になってほしいという思いを持っています。

こうした思いのもとで、現在、本施設整備の基本設計を進めているところでございますが、本施設が地域住民をはじめとする市民の皆様と観光客の皆様等との人と人との

つながりを生み出すことができる施設となりますよう、また、新型コロナウイルス感染症終息後のポストコロナの新たな時代、Society5.0時代のデジタル化、スマート化の潮流を捉えた施設になりますよう、大いに期待をいたしているところでございます。

どうか本専門会議の委員の皆様方におかれましては、専門的な視点からの御意見、御提言をいただきますとともに、湯田温泉そしてオール山口の発展に向けて、お力添えを賜りますようによろしく願いを申し上げます。

終わりに当たりまして、委員の皆様方のさらなる御活躍を祈念させていただきまして、挨拶とさせていただきます。大変お世話になります、どうかよろしく願いを申し上げます。

3 委嘱状交付 (省略)

—市長は公務のため退出—

4 会長・副会長選任

【事務局】本協議会の会長及び副会長の選任でございます。

本日お配りをしております資料6の多世代交流・健康増進拠点施設整備専門会議設置要綱の第5条第1項の規定により、本専門会議には、会長及び副会長1名ずつを置き、委員の互選により定めることといたしております。これにつきまして、特に御異議がなければ、事務局で用意しております案を提案させていただいてよろしいでしょうか。

(特に意見なし)

それでは事務局から提案をさせていただきます。会長を鵜様に、副会長を廣田様をお願いしたいと存じますが、皆様御賛同いただけますでしょうか。

(異議なし)

それでは、皆様の御賛同いただきましたので、鵜様、廣田様よろしく願いいたします。会長が選出されましたのでこれ以降の進行につきましては、設置要綱の第6条第1項の規定によりまして、鵜会長をお願いをしたいと思います。それでは鵜会長、前方の席へ移動をお願いいたします。

【鵜会長】 会長を仰せつかりました、山口大学の鵜です。どうぞよろしくお願いいたします。

本専門会議で議論いたします多世代交流・健康増進拠点施設は、山口都市核のまちづくりにおいて、新本庁舎整備のプロジェクトとあわせて、非常に重要なプロジェクトであると理解しております。

特に、湯田温泉地区のまちづくりを進めていく上では、この地区に、住民をはじめ、多くのステークホルダーの方がいらっしゃる、そうしたステークホルダーの方々の御意見を踏まえながら、施設整備を考えていかなければならないと思っています。

この専門会議では、施設の機能をはじめ、この敷地のある地区をどのような場所にしていけるのか、また、どのような場所が望まれているのかということなども含め、この場所について深い議論をしていかないと、この空間の整備提案につながらないと感じています。先ほどの市長のお話にもありましたが、地域ですとか都市ですとか、そういった計画と併せて、この周辺にどのように好循環を生んでいくのかということも求められると思っています。

委員の皆様の忌憚のない御意見をいただきながら、施設整備の最終ゴールを迎えたいと思っておりますので、何とぞ御協力のほど、よろしくお願いいたします。

簡単ですが、挨拶は以上とさせていただきます。

廣田副会長から、一言、御挨拶をお願いいたします。

【廣田副会長】副会長に仰せつかりました山口県立大学の廣田と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。若輩者でして、至らない点が多々あるかと存じますが、勉強させていただく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

各委員からも一言ずつ挨拶(省略)

【鵜会長】議事に移らせていただきますが、その前に、委員の皆様にお願いがございします。

本協議会は原則公開で行い、会議録を作成するため発言内容を録音させていただきたいと思ひます。また、委員名を除き、要約した会議録などを市ホームページなどで公開したいと思ひます。これにつきまして、皆さん、よろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それではそのようにさせていただきます。

また本日は山口市のほうから、山口市都市整備部都市計画課の清水課長と同じく都市整備部建築課の山本課長の2名にも御出席をいただいております。事務局であるスマートシティ推進室、及び、基本設計の受託事業者でございます光井純アンドアソシエーツ大建設計共同体、そして委員の我々で議事を進めていくということになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

5 議事

【鵜会長】それでは、次第の5に入ります。まず一つ目の多世代交流・健康増進拠点施設整備について、資料3から資料5を使いまして、これまでの経緯などを含めて説明を事務局からお願いしたいと思います。

(1)多世代交流・健康増進拠点施設整備について

【事務局】

資料3～5について説明

(2)意見交換

【鵜会長】ただいま事務局から説明がございました内容について、委員の皆様から、御意見をいただきたいと思います。

ゾーニングの案が7案出ておりますが、今後のスケジュールを考えると、次回の専門会議では、これを絞り込んで、議論をしていく必要があるのです、そこについての御意見も、是非、今日、いただきたいと思います。出来ましたらその辺を念頭に置きながら、御意見をいただければと思います。

【A委員】配置案を見ますと、Fが1番、音に関して言えば防音により配慮されたものになっているかと思いますが、実際、この配置にしたときに、例えば、太鼓でありますとか、郷土芸能関係の楽器を、夜8時ぐらいに演奏したときに、本当に近所の方に御迷惑にならないレベルなのかどうか、そういったところをどのようにお考えかお伺いしてよろしいでしょうか。

【事務局(設計)】F案は大屋根広場の三方が建物で囲まれておりますので、音響については、かなりコントロールがしやすくなります。本施設を整備するにあたり、当然、音の漏れや遮音性能、そういったことを配慮する必要がありまして、これからの検討の中で対応可能です。音の遮音率をどこに設定するか、それによって、音漏れがどの程度、例えば90デシベルが40デシベルになるとか、それは調整することが出来ます。F案のようにコの字型に囲まれていると、より防音しやすいということがあると思いますし、それから、多目的交流施設等々で囲まれておりますので住居側に対して、より音響的に閉ざされた形になっておりますので、比較的処理はしやすいということは、言えると思います。

【鵜会長】例えば、AからGの7案あって、Fは遮音がプラン上しやすいという御意見でしたけど、どのプランをとっても、防音・遮音については、対応可能と理解してよろしいでしょうか。

【事務局(設計)】はい、そのようにお考えいただいて大丈夫です。よりしやすいかどうかという点で、差異があるということです。

【B委員】湯田地域は、この整備に対して、湯田の生き残りがかかっているという、非常に大きな危機感と期待感を持たれていると感じています。

また、産業交流拠点施設を訪れた方が、湯田に行ってみたいと思えるような、そういった施設にしてもらえないだろうかという意見があります。

F案を見ますと、大屋根広場に、文化体験スペースもあり、一体的に使えれば、収容人員が拡大できると思います。地域としては、出来れば、1,000人規模のものが欲しいという思いがあります。この施設整備が非常に湯田温泉エリアの経済の活性化に作用するものだと感じます。

併せて、湯田温泉には歴史文化に関する地域資源があるので、そういった資源に磨

きをかけることが大事だと考えます。何か面白いエピソードやストーリー性を持ったものをしっかりと磨いていただきたいと思っています。

産業交流拠点施設に来られた人が、とにかく山口に来たんだったら湯田温泉に行ってみようと、そう思える魅力ある場所にしてほしいと望みます。

また、温浴施設については、温泉を経営される方の民業圧迫にならないよう、今の寿泉荘の面積の維持をよろしくお願いしたいと思います。

最近、ペットを飼われる方が多いので、外の芝生エリアでも結構ですので、ペットが温泉に入れるようなところがあればよいと思います。

飲食機能についても、できるだけ民業圧迫にならないような形で、簡単な飲み物とか、簡単なスイーツを提供する程度の内容に留めていただきたいと思います。

【鶴会長】1,000人程度の根拠が何かありますか。

【B委員】大学の学会等を誘致できる規模を考えています。湯田温泉のホテルも使って、分科会を開催してもらえば、湯田温泉に波及効果があると考えています。

出来れば、大屋根広場だけで1,000人規模が希望ですが、文化体験スペース等を活用して拡大するということでも良いのではいかと。

あと、もう1点、温泉の熱を冬場の暖房に活用するなど、脱炭素社会に向けた取組の検討もお願いしたいです。

【事務局(設計)】今言われたような温泉のお湯の温度をそのまま利用する方法と、72℃(源泉温度)から42℃くらいまでお湯を冷ます際の温度差を使って発電が出来ないかといった検討を多少始めておりまして、今後も検討を進めます。

【鶴会長】ペット温泉について、事務局から何かありますか。

【事務局】ペットの温泉につきましては、現在、他施設の状況を研究しています。こうした機能の導入が可能かも含め、引き続き、検討していきます。

【C委員】資料5の22ページの、賑わいづくりのための3つの重要ポイント②「櫓など遠くからでも視認でき、湯田温泉のシンボルとなるデザインを取り入れる」に共感しておりまして、観光客が来訪してからの視認性というのももちろん大事ですが、絵になる施設というのは観光客を集める上で非常に重要なポイントではないかと思っています。

例えば、瀬戸内の温泉を、海外に紹介するとき、必ず、道後温泉の写真が使われます。瀬戸内といえば湯田温泉が必ず紹介をされる、象徴として紹介されるような施設になると、誘客という意味でも非常に効果があるのではないかと思います。

ゾーニングと直接関係がないかもしれませんが、写真に撮った時に、湯田温泉を象徴するような絵として撮れるかどうか、他と差別化できるかどうか、といった観点をに入れて

いただくと良いかと感じました。

【事務局(設計)】御指摘のように、写真を撮った時に、湯田だ、ということがすぐ分かるような、デザイン性の高いものを提案していきたいと思います。

【鵜会長】資料5の9ページに、配置ゾーニングの条件整理として、必須条件、優先順位により取舍選択する条件があります。必須条件の中の「地域交流センターへの動線を確保する」は、F案だと難しいかなと思います。専門会議としては条件の優先順位の検討を是非お願いしたいと思っていて、例えば、先程お話した、コの字型のFプランであれば、地域交流センターとの動線は確保できるにしても、空間的な余裕がかなり限られます。他のプランに比べれば、コの字のプランというのは歩行者動線が少しとれるぐらいで、そのことをどのように考えるかが、この専門会議の役割だと思いますので、そういった視点で、各プランを御検討いただきたいと思います。その辺り、皆さんから何かプランについて質問でいいと思いますが、何かございませんでしょうか。

【B委員】防音について、どのプランも防音はできるということですが、22億円という事業費の枠の中で、1番シンプルな形で防音ができるのはFのプランじゃないかな、と感じています。案によっては、費用が相当かかるのではないかと。

【事務局(設計)】建物に囲まれたところは、その建物が遮音性能を持ちますので、遮音が非常にしやすいということは御想像いただけたと思います。

そういった意味では、例えば、F案においては、芝生広場に接している一直線の面が、ガラスとかパーティションになりますので、その面を遮音しないといけません。

次に、例えば、C案であれば、正面道路に対しては3分の2ぐらいがガラスになり、反対側の上側に対しては、今度は温浴施設と多目的スペースに囲まれていますので、上側の緑地に対しては、残りの3分の1が面しているという形で見ていただきますと、大体1番遮音が難しいガラス面が、結果的に、CとFでは、大体同じということになります。

一方で、例えば、E案を見ていただきますと、大屋根広場の上下が完全に抜けていますので、防音の費用といった意味では、F案、C案に比べるとちょっと費用がかかりそうだということは想像していただけるのではないかと思います。

【鵜会長】ありがとうございました。

本施設の整備面積の条件がありますか。全体の面積があっていればよいのか、例えば、大屋根広場に直接面する芝生広場が何平米必要であるといった面積の条件はありますか。

【事務局】基本計画では、大きく3つの機能の総面積を基本として考えることとしておりまして、機能の接面性ですとか、芝生広場の面積に関しては、特段、今時点で縛りはあ

りません。

【鶴会長】わかりました。大屋根広場と芝生広場に着目して、関係を見ていくと、一体的に使用できる組み合わせと、かなり限定的な使い方をするような組合せがありますね。先ほど出た御意見のように、フレキシビリティの高い空間配置ということを考えれば、もう少しそういったところを絞っていかないといけないのかなと思いますし、それも少し、次回に向けて検討素材として、事務局のほうで整理をしておいていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

また、例えば、C案は、建築物が分棟になっており、1つの建築ではなく、建物の塊が幾つかあり、それを大屋根でつないでいるような、1つの建築物というよりは、幾つかの建築を屋根がまとめている配置になっています。一方、コの字型のF案は、1つの建築物があるようなイメージです。C案のように分散的に建築物が敷地の中に建っているメリットについては、どのように考えていますか。

【事務局（設計）】C案は、幾つかの建物のボリュームが大屋根広場の周りにあり、そういった意味では、周囲に余り大きな壁をつくらず、都市景観上は、周囲に配慮したスケール感になりやすいと考えています。もちろん、F案でそれが出来ないことはありませんが、御指摘のようにF案は、シンプルな形で、大きな形でありますので、割と、ゴロンとした、比較的大型の建物の見え方になりやすいということはあるかもしれません。

【鶴会長】事務局にお願いですが、各案を模型で示していただけないでしょうか。3次元でないと、分かりづらいように感じます。

【事務局】次回、お示しできるようにします。

【C委員】先ほど申し上げた観点でいえば、なんとなく、F案がよいかと、思っています。

【鶴会長】地域交流センターとの連続性、連携について、事務局はどのような考えを持っていますか。拠点施設と地域交流センターの間に、行き来しやすい非常に密度の高い動線が必要なのか、それとも空間的につながりがあり、かなり連携した使い方をしないといけないのか。その辺、教えていただけませんか。

【事務局】地域のお声として、やはり、地域活動の場としても、この拠点施設を使いたいとお聞きしております。それが、動線程度で良いのか、空間的な一体性が必要なのかというところは、色々な意見がございまして、駐車場が施設と施設の間に入った方が良いという御意見もありますし、その辺りは、また、地域の方の御意見も聞いてみたいと思います。

【鵜委員】例えば、拠点施設に1,000人規模の人数が来たときに、交流センターの方まで人が溢れ出る、といったイメージもありますか。

【事務局】イベントの内容にもよるかとは思いますが、その点については、少ししっかりと地元等と話し合いが必要ではないかと思います。

【C委員】資料4の2ページ目について、指標の優先順位をつけてはいかがでしょうか。市の方で既にある程度の優先順位がついていれば、お示しいただくとよいかと思います。

【鵜会長】事務局で、指標の優先順位付けと、二重丸、丸、三角といった簡易評価をしたものを作成し、御提示いただけますか。

【事務局】次回、お示しします。

【鵜会長】また、本日出た意見を踏まえて指標を修正もしくは追加等をしていただいて、優先順位をもう少し考えていただければ助かります。

【事務局(設計)】7つの案をすべて同じ密度で検討するのは少し難しいので、2～3案程度見てみたいものを指定いただければ、それについて、模型を作成するといったことが可能となりますので、そのあたり御指示をいただければと思います。

【D委員】車椅子の方とか、ベビーカー連れの方が来られた場合の導線について知りたいです。

【事務局】基本的には県が出しているユニバーサルデザインのガイドラインを十分満たした形で、今後、作業を進めていければと思っておりますし、本日、2～3程度、案の方向性が決まれば、参考平面図などで、より検討を深めて次回お示しすることが出来ようかと思えます。

【鵜会長】何も根拠がなく、この案を見てみたいというのは難しいと思いますが、模型をつくっていただくと、例えば、AとFはコの字の口がどちら向きに開いているのか、という違いだということが分かりやすいでしょうし、それとGとEというのは、少し、黄色の部分がずれている程度で、要は構成としては、大屋根と大きな芝生広場が南北にあるということになるかと思えます。みんなで模型をいじりながら、こういった議論をするにあたって、CとEとFをベースに考えることができるかな、と思いました。一度、今日の意見を踏まえた形で項目立てをして、優先順位をつけていただいた上で、3案ぐらいに事務局原案を絞っていただいて、次回、3案の中から、有力候補を検討するという、そういうやり

	方でいかがでしょうか。 (異議なし) では、そのようにさせていただいて、まずは事務局のほうで、優先順位と候補案を絞っていただくという作業をお願いしたいと思います。 【事務局(設計)】模型を作って、皆さんの真ん中に置いて、補助の人間が模型を動かす、次回はそんなかたちで進めるということによろしいですか。 【鶴会長】そのようなかたちで議論できればと思います。 1番重要なところの議論だと思いますので、ぜひよろしくお願いします。 それでは、3時近くなったので、議論については以上で終わりたいと思います。それでは続いて、今後の日程について、事務局から説明をお願い出来ますでしょうか。 【事務局】はい、議事において、御説明いたしましたとおり、本会議はおおむね4回程度の開催を予定をしております、次回第2回の会議は5月を予定しております。開催日が決まりましたら改めて連絡をさせていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。以上です。 【鶴会長】はい。ありがとうございます。大体5月ぐらいを予定しているということですので、よろしくお願いいたします。もし事前に資料が配付できるようであれば少し余裕を持った形で委員の皆さんに資料が届くようにお願いしたいと思います。それではこまめで全体を通して皆さんのほうから御意見、御質問等がございますでしょうか。 特にないようでしたら、大体時間になりましたので、以上をもちまして本日の専門会議は終わりたいと思います。事務局にお返しいたします。 【事務局】公私御多用の中、御出席、御議論賜りましてありがとうございます。以上をもちまして、第1回多世代交流・健康増進拠点施設整備専門会議を終了させていただきます。 皆様お疲れさまでした。ありがとうございました。
会議資料	次第 資料1 委員名簿 資料2 配席図 資料3 多世代交流・健康増進拠点施設整備について 資料4・5 配置ゾーニングの検討 資料6 「多世代交流・健康増進拠点施設整備専門会議設置要綱」 参 考 「多世代交流・健康増進拠点施設整備基本計画」